

第16回基本政策部会・第40回宇宙安全保障部会合同部会  
議事要旨

- 1 日 時  
令和3年3月2日(火) 10:00~12:40
- 2 場 所  
内閣府宇宙開発戦略推進事務局 大会議室
- 3 出席者
  - (1) 委 員  
(基本政策部会)  
中須賀部会長、松井部会長代理、石田委員、片岡委員、栗原委員、櫻井委員、白坂委員、角南委員、常田委員、林委員  
  
(宇宙安全保障部会)  
片岡部会長代理、遠藤委員、折木委員、久保委員、白坂委員、鈴木委員、土屋委員、中須賀委員、名和委員
  - (2) 事務局  
宇宙開発戦略推進事務局 松尾事務局長、岡村審議官、吉田参事官、藤重参事官
  - (3) オブザーバ  
山崎宇宙政策委員、宇宙航空研究開発機構(JAXA) 石井理事
  - (4) 有識者  
東京大学大学院情報学環 教授 中尾 彰宏  
Northrop Grumman 社  
Lockheed Martin 社
- 4 議事要旨(○:意見等)  
有識者および林委員から、「将来を見据えた宇宙政策の役割について」資料1~4に基づいて説明が行われた。質疑応答について、以下の意見があった。

<安全保障分野>

○OHGV(極超音速滑空弾)探知など、早期警戒機能の向上に関し、低軌道だけではなく、中軌道、静止軌道の活用についても考えていく必要があるのではないか。

○また、今後、多国間連携が要点となる宇宙安全保障において、サイバー・セキュリティなどについても、しっかりと対応して行く必要があるのではないか。

<防災分野>

○大規模災害時には、衛星観測に加え、衛星通信の役割も大変重要になる。

○小型衛星コンステレーションのデータの防災への活用については、大型衛星のデータに比べて、解像度は高くはないが、時間分解能が高く、発災直前との差分がわかる点が、優れている。

また、防災の観点からは、タスキング(発災後すぐに依頼に応じて特定の場所を撮像すること)ができることが重要。

○民間の小型コンステレーションを活用する場合、タスキングの際にも、どこを撮ればよいかという情報をどのようにすばやく得るかも課題であり、防災当局との連携が重要となる。また、平時からの定点観測ビジネスとのプライオリティを調整する枠組みが必要。

○防災、安全保障、商業などいろんな用途で使える小型衛星の標準バス開発を国産でできるようスピード感を持って対応していくことが必要。

<通信分野>

○小型衛星のシェアライドについて、ユーザーニーズに応じて打上げ後に柔軟にミッションを変えることができる仕組みを構築することが重要。

また、個人も含めて、ユーザーニーズを拾い上げる仕組み、また資金負担も含めた官民の役割分担を検討することも重要。

○宇宙通信の将来を考えるに当たっては、地上も含めた将来の通信アーキテクチャ全体の中で、衛星側の対応だけでなく、クラウド側やユーザー端末側の視点も含めて考えていくことが重要。